

17巻 表紙・はしがき・目次

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-05-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00065943

論文集
第17卷

2021年度

金沢大学人間社会学域経済学類

社会言語学演習

はしがき

本論集は、金沢大学人間社会学域経済学類社会言語学ゼミ（代表 西嶋 義憲）が編集・発行するゼミ紀要『論文集』の第17巻です。本巻には6編の論文が収められています。執筆者は、学士課程の経済学類3年生と4年生です。

巻頭論文「少年漫画における好まれる主人公像の歴史的変遷——自称詞と年代による分析——」は、主人公の年齢と使う自称詞の2つの観点から日本のヒット漫画を年代ごとに分析し、低年齢化と性格の軟化を指摘しています。

2編目の「レシピタイトルにおける「で」構文——レシピ検索サイト「kurashiru」の分析——」は、「kurashiru」というレシピサイトで「AでB」という構文がタイトルに用いられているレシピを検索し、その構文の中でどのような語がどのような意味を持って使われているのか、また、どのような組み合わせが可能なのかを分析しています。

3編目の「近年の流行歌の傾向と若者の人間関係の変化」は、ヒット曲の歌詞の変化を若者の人間関係の変化と関係づけて論じています。

4編目の「日本ではなぜヒップホップジャンルの楽曲が流行らないのか——社会格差と音節構造の違い——」は、ヒップホップが日本で受け入れられない理由を考察しています。

5編目の「社会状況と名づけの変遷」は、社会状況と子供の名前の流行との関連性を明らかにしようとした試みです。

6編目の巻末論文「スポーツ大会ポスターの日米比較」は3年生の共同研究です。ジャンルの異なるスポーツの大会ポスターを日米で比較しています。

*

今年度の学士課程の卒業生は5名です。大学院の修了生はいませんでした。それぞれの分野での卒ゼミ生たちの一層の活躍を祈っています。

退職まであと1年となりました。現在、学士課程の学生が5名、大学院博士前期課程と後期課程にそれぞれ2名の院生が在籍しています。この1年間で、学生たち9名全員を無事に卒業・修了させ、すっきりとした気分で退職したいと思います。

1年後の私の退職により、このゼミ紀要『論文集』は次の第18巻が最終巻になります。ありがたいことに、このゼミの修了生で、現在福岡大学で教員をしている尹秀美さんが音頭をとり、第18巻を私の退職記念号にしようと、同じく修了生のノフィアさん（インドネシア教育大学教員）の協力のもと、卒ゼミ生たちに連絡し、その準備を進めてくれています。どのような最終巻になるのか、今からとても楽しみです。

2022年3月 西嶋 義憲

目次

<論文>

阿部 修

- 少年漫画における好まれる主人公像の歴史的変遷
——自称詞と年代による分析—— 1

大桃 史円

- レシピタイトルにおける「で」構文
——レシピ検索サイト「kurashiru」の分析—— 25

金和 達也

- 近年の流行歌の傾向と若者の人間関係の変化 39

館 一輝

- 日本ではなぜヒップホップジャンルの楽曲が流行らないのか
——社会格差と音節構造の違い—— 55

西村 克輝

- 社会状況と名づけの変遷 73

本田 一晟・夏目 実桜・布施 保晴

- スポーツ大会ポスターの日米比較 91

*

- 過去および現ゼミ生の論文タイトル 111

- 金沢大学社会言語学演習紀要『論文集』第18巻執筆要領（簡略版） . . . 128